

第209話 口誦文芸① 「^{ごぜ}警女説地震身上」 その1 中山町 歴史散策

岩谷信仰全盛の頃、警女の間で三味線に合わせて昔語りを口演することがありました。これは、宿借りの返礼であったり、乞われて口演することもあり、親孝行や因果応報、武勇談などさまざまな演題があつたのでしようが、残された資料は見当たりにません。

似たようなものに、「祭文」と称する浪曲の起源となった口演物は、いくつか近村に残されていましたが、その中でも警女の間で口演された「警女説地震身上」は、文政11年（1828年）に新潟で起きた大地震の悲惨さを語った長編ものです。

多分に脚色され、時には涙をさそい、時には親子の情愛にふれる箇所や教訓もあり、その節回し、声色によって多くの聴衆の喝采を得たことだろうと想像できます。もともと、警女の元締めが所有していたものでしょうが、長崎の西町の名主斎藤太（多）蔵家が長く警女宿であったことからいつしか警女口上台本のいくつかは斎藤家に保管、所蔵されてきたものと思われま

す。当時の作品の脚本は、武士や豪商、豪農で筆の楽しみに書くことが多く、自らの名を公表で

きないことから、珍妙な筆名を用いることがありました。この「警女説地震身上」も、表紙には「気保屋蝶右衛門」「泣和津地声大夫」の名があり、裏表紙には滑稽な表現があります。

三味線 天罰阿太郎、浮世波太郎
作者 異見勇右衛門
書林住所 何所モ此通りこまり町 南部庄右衛門

と書かれてあります。いずれも駄洒落で、作者は「異見言右衛門」、口説（口演者）は気保屋蝶右衛門、泣和津地声大夫の名は、有名狂言師の名を下敷きにしたもので、発行所は「イズコモコトオリコマリチョウ」とは笑止千万な話です。

【用語の説明】

警女：江戸時代から昭和の初め頃まで、三味線を手に縁のある村から村へ旅して歩く、目の不自由な女性たちのこと。

口演：口で述べることを指し、主に講談、浪曲、落語、紙芝居など口で語り演じるものをいう。

※引用

中山町史 中巻
第10章第3節
文芸と美術工芸

私たち地域おこし協力隊です！ No.75



皆さん、こんにちは。地域おこし協力隊の高橋です。

あつという間に今年も残すところあと少しになりましたね。山形の冬は3回目ですがまだ初心者なので、気合を入れなくてはと思っています。

さて、先日のスマホ教室では、「インターネットショッピングについて」という内容で開催しました。実店舗との違いや、実際のショッピングサイトを見ながら、便利さや利用の流れなどの概要を皆さんと一緒に行いました。普段、私自身もインターネットショッピングを活用しており、特に重いものや大きいもの、新幹線のチケットなどを購入し、その手軽さや便利さを実感しています。参加いただいた方から「実際に買ってみよう」という声があり、とても嬉しく感じました。しかし一方で、「個人情報の扱いや支払い方法が心配」といった不安も見受けられました。

インターネットショッピングを行う際は注意点などもあります。皆さんの生活がより楽しく便利になるお手伝いをしていますので、実際に買ってみよう方、話を聞いてみたい方はスマホよろず相談所もお気軽にご利用ください。

スマホよろず相談所

月・水・金（午前10時～正午 中央公民館 / 午後1時30分～4時30分 〇っと）

●協力隊への問い合わせ先● 高橋 ☎662-2223（総務広報課）



高橋 圭哉

出身地：宮城県岩沼市
趣味：けん玉、
アニメ鑑賞

